

令和8年亀岡市議会定例会6月議会一般質問

亀岡市議会

令和8年亀岡市議会定例会6月議会 一般質問順序予定表

開催日及び開始予定時間		質問者		質問方式	
6月16日(火)	10:00～	個人	1 松山 雅行	一問一答	
	10:45～		2 木村 勲	一問一答	
			休憩		
	13:00～		3 大西 陽春	一問一答	
	13:45～		4 富谷加都子	一問一答	
			休憩		
	14:45～	5 小林 仁	一問一答		
6月17日(水)	10:00～	個人	6 浅田 晴彦	一問一答	
	10:45～		7 梅本 靖博	一問一答	
			休憩		
	13:00～		8 原野実生子	一問一答	
	13:45～		9 片山 輝夫	一問一答	
			休憩		
	14:45～		10 林 徹司	一問一答	
15:30～	11 大石 慶明	一問一答			
6月19日(金)	10:00～	個人	12 大塚 建彦	一問一答	
	10:45～		13 土岐 新	一問一答	
			休憩		
	13:00～		14 山木 裕也	一問一答	
	13:45～		15 三上 泉	一問一答	
			休憩		
	14:45～		16 山本由美子	一問一答	
15:30～	17 法貴 隆司	一問一答			
6月22日(月)	10:00～	個人	18 平本 英久	一問一答	
	10:45～		19 竹内 博士	一問一答	
			休憩		
	13:00～		20 西口 純生	一問一答	
	13:45～		21 齊藤 一義	一問一答	
			休憩		
	14:45～		22 福井 英昭	一問一答	
15:30～	23 菱田 光紀	一問一答			

【注意】

質問者の日程については予定であり、議事の進行により変更する場合があります。ご了承ください。

			<p>(3) 本市では重大事態発生後の調査体制は整備されているが、未然防止や早期対応の観点から寝屋川市のような学校や教育委員会とは別の相談体制を整える考えは。</p> <p>(4) タブレットを活用し、匿名でいじめの報告や相談ができるアプリを導入してはどうか。</p>	
2	<p>木村 勲 6月16日(火) 10:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 公共ライドシェアについて</p> <p>2 電子投票の導入について</p>	<p>本市のバス公共交通については、ふるさとバス・コミュニティバスの運行を京阪京都交通バスが行っている。6月2日の京都新聞に、別院コースにおいて公共ライドシェアを導入するとの記事が出た。メリットデメリット及び運行内容の今後の展開について問う。</p> <p>(1) 別院コースの乗降人数は。</p> <p>(2) 各停留所、時間帯ごとの乗降人数は。</p> <p>(3) 現在の費用と今後の費用は。</p> <p>(4) 第一種免許の一般ドライバーの運転についての安全対策はどうするのか。</p> <p>(5) 事故に対する保障は。</p> <p>(6) 事業者協力型とは。</p> <p>(7) ルートの再検討の予定はあるのか。</p> <p>(8) 今後別ルートについての構想はあるのか。</p> <p>本市では来年1月執行予定の亀岡市議会議員一般選挙で電子投票を実施する見込みであると伺った。しかし、以前には投票機器の故障で一時投票不能になった市もあり不安の声もある。事前の体験会の開催などの対応について問う。</p> <p>(1) 現在の投票所の数と職員数と投票管理者などの人数について減らすことができるのか。</p> <p>(2) 業者選定方法及び経費は。</p> <p>(3) 立候補の想定人数と立候補者の多い市議選での画面はどのようになるのか。</p> <p>(4) 投票用紙は完全になくなるのか。</p> <p>(5) 全国の実施例と動向は。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長 選挙管理委員会 委員長</p>

		<p>3 桂川西工区の橋梁工事及び右岸道路について</p> <p>4 JR亀岡駅北のコウノトリの巣塔設置について</p>	<p>亀岡中部農地整備事業桂川西工区内の犬飼川と願成寺川に立派な橋が完成した。橋の南北の道路との接続部と右岸道路としての構想について問う。</p> <p>(1) 橋の南北の接続部についての工事予定は。</p> <p>(2) 市道保津宇津根並河線との接続部の道路幅は。</p> <p>(3) 今後の市道保津宇津根並河線の拡幅予定は。</p> <p>(4) 桂川右岸道路の構想は橋の北側堤防の市道中島上溝線が拡幅されて千代川町川関まで延伸される計画と聞かすが、構想は。</p> <p>毎年、本市には数羽のコウノトリが飛来しているが繁殖のための巣塔がない。今回、JR亀岡駅北の「全国都市緑化フェア in 京都丹波」会場に設置予定について問う。</p> <p>(1) 大阪・関西万博の大屋根リングの部材で、コウノトリ巣塔の設置予定の進捗は。</p> <p>(2) 市の鳥コウノトリの保護活動は。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>
3	<p>大西 陽春 6月16日(火) 13:00~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 国民健康保険事業について</p>	<p>令和7年6月議会では「国民健康保険における国庫負担率の引き上げおよび早急な制度の改革を求める意見書」が全会一致で可決された。市民から「払える国保料に」との要望が強い。</p> <p>(1) 保険料値上げを避け、据え置きにする場合、法定外繰入はいくら必要か。</p> <p>(2) 法定外繰入をすべきと考えるが、その方法をとらないのはなぜか。</p> <p>(3) 病気や怪我のため失業となり保険料が払えないとの相談があった場合どのように対応しているか。</p> <p>(4) マイナ保険証を持たない人に発行する「資格確認証」は、今年度も申請なく発行するのか。</p>	<p>市長 所管部長</p>

	<p>2 学校給食について</p>	<p>令和9年度から育親学園自校給食、令和10年度から全小中学校・義務教育学校の給食実施については保護者から期待が寄せられている。学校給食をより良いものになるように以下の点について問う。</p> <p>(1) 新しくつくる給食センターのプロポーザルの進捗について問う。</p> <p>①参加資格事業者は複数社あると聞かすが、提案書を提出した事業者はあったか。</p> <p>②提案限度額の141億630万1千円の算出根拠は、建築費58億6,715万4千円、運営費82億1,717万7千円と聞く。運営費の積算根拠は。</p> <p>③プロポーザルに関わる選定委員会の構成と委員会開催のこれからの予定は。</p> <p>(2) 給食の内容の充実について問う。</p> <p>①献立作成や物資調達は亀岡市が行うとされているが、事業者との調整はどのように行うのか。</p> <p>②亀岡らしく、質・量ともに落とさない給食を実施するために努力されているが、今の給食と他市の給食と比較して所見は。</p> <p>③児童生徒、教職員に対して、給食に関するアンケートを行い、給食内容の充実を図るべきではないか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>
	<p>3 かめおか児童クラブについて</p>	<p>放課後の子どもたちの健やかな成長や保護者の就労支援を果たす「かめおか児童クラブ」は子育て世代の生活を支える大切な役割を担っている。放課後も、子どもたちが安全に豊かに過ごせるように以下の点について問う。</p> <p>(1) 現在の「かめおか児童クラブ」の課題は。</p> <p>①施設の修繕はどのように行っているか。</p> <p>②施設の広さと利用者の人数は厚生労働省「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」に基づき「児童一人につきおおむね1.65平方メートル以上でなければならない」となっているが、かめおか児童クラブの全施設は要件を満たしているのか。</p>	<p>市長 所管部長 教育長</p>

			<p>③2人目からは無料であるが、1人6,000円/月は何に使われているのか。</p> <p>(2)民間委託にすることについて問う。</p> <p>①民間委託した場合の委託料5億円の根拠と内訳は。</p> <p>②現在の職員には民間委託の説明はされているか。</p> <p>③職員の待遇の変化はないのか。</p>	
4	<p>富谷加都子 6月16日(火) 13:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 高齢者支援モデル事業について</p> <p>2 緊急通報装置設置申請要件について</p>	<p>今年度から実施している多様な実施主体による高齢者支援モデル事業の取組は、地域の助け合いを公的な仕組として構築するための重要な一歩である。今後の本格展開を期待し、持続可能な体制整備について問う。</p> <p>(1)この事業において、市から実施団体への支援金額を、移動支援1回につき300円、乗り降り4回として計1,200円、家事支援15分300円と設定しているが、事業の財政スキームは。</p> <p>(2)亀岡市社会福祉協議会が提供している住民参加型の在宅福祉サービス「くらしのサポートサービス」と、今回、立ち上げた地域支援事業である高齢者支援モデル事業との整合性と役割分担は。</p> <p>(3)モデル事業である住民主体の支援を持続可能にするためには、支援者及び利用者からのニーズを聞き取り、コーディネートをする役割が重要である。財源が介護保険となれば、今後、全市への視野が必要である。コーディネーターの配置や活動支援についての考えは。</p> <p>独居高齢者が増える中、自立した生活を続けることができるよう、緊急通報装置の要件を見直すべきとの声がある。</p> <p>(1)緊急通報装置の設置は、命を守る命綱である。これまで、「扶養義務者が近隣に住んでいないこと」を要件としてきたが、病身等、近隣に身内がいるか否かに関わらず、緊急時のリスクは等しく存在する。形式的な条件を撤廃し、本人の健康状態や緊</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>3 膵臓がんの早期発見早期治療について</p>	<p>急性の高さを最優先にし、包括的なインフラへと再考するべきだと考えるがどうか。</p> <p>膵臓がんは、自覚症状が乏しく、発見時には、既にステージがかなり進んでおり、診断後の5年生存率は、10.5パーセントであり臓器別で最も低い難治癌とされている。広島県尾道市の尾道方式と呼ばれる「膵癌早期診断プロジェクト」を参考にした早期発見体制づくりについて問う。</p> <p>(1) 膵臓がんの現状についての認識は。</p> <p>(2) 地元医師会や中核病院が連携し、膵臓がんの早期診断に取り組む必要性についての考えは。</p> <p>(3) 早期発見には、自発的な検査で見つけるしかないが、膵臓がんを知り、膵臓がんの危険因子を判断できる資料等を検診等の案内で周知・啓発するなど、一歩進んだ取組はできないか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>4 予防医療の推進について</p>	<p>市民の健康寿命延伸と将来的な国民健康保険料の負担抑制のため、予防医療・重症化予防への取組について問う。</p> <p>(1) 特定健診やがん検診、健康増進イベントの受診率や参加率の推移をどのように分析しているのか。</p> <p>(2) 特定健診やがん検診の受診率や健康増進イベントの参加率を上げるには、健康無関心層やハイリスク層への仕掛けが必要と考えるが見解は。</p> <p>(3) 大分市では、健康無関心層への働きかけとして、がん検診や特定健診の案内文にナッジ理論(ついやってしまう行動習性)を取り入れ健康無関心層の行動変容を促している。今後、様々な先進事例を参考に、取り残される人が最小限になるような戦略はあるか。</p>	<p>市長 所管部長</p>

5	<p>小林 仁 6月16日(火) 14:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 不登校対策 について</p>	<p>現在、本市において不登校児童生徒数は高止まりしており、早急な対策が求められている。行政は「登校のみをゴールとしない」『かめおかまるごと「まなび」の保障構想』を掲げているが、「多様性」や「ありのままでよい」といった言葉が本来果たすべき教育行政の責任からの「逃げ道」や「放置」になっていないか検証が必要である。教育長からのメッセージで「不登校とは、心理的・情緒的・身体的な要因とともに周囲の環境や社会的背景が複雑に絡み合う結果として生じる社会的現象」としているが、現代社会の悪い縮図と考える。児童生徒を対象としたアンケート調査結果によると、不登校児童生徒が休んだ時に感じたこととして、「ほっとした、安心した」と回答した背景には、学校が「24時間精神を研ぎ澄まさないといけない過緊張の場所」であり、失敗が許されない現代社会の悪い縮図が教室に再現されている現状がある。また、アンケート回答の「学校に行きたかった」という回答には、多くの子どもたちが抱く「集団の中で繋がりたい」という切実な願いがあり、憲法第26条に定められた「教育を受ける権利」がいかに果たされるべきか、本市教育の根本的な哲学と施策について問う。</p> <p>(1) 現代社会の縮図としての学校環境と、自己肯定感の喪失について問う。</p> <p>①現在の学校が、一度の失敗で挽回が認められない「減点方式」や過度な同調圧力を生む場になっていないか。学校を「○か×を教えられる場」から「自分の思いを言い、多様な人から学ぶ場」へ転換する必要性について所見は。</p> <p>②自己肯定感が低い現状について、自分で選んで失敗し、それを乗り越える経験をする前に、大人が先回りして失敗を防ぐために、正解を誘導し、「はい、よくできました」となり、できなければ、烙印を押すシステムになっていないか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>
---	--	-------------------------	--	----------------------------

			<p>③まずはチャレンジさせ、「まちごうてもかましまへん」という、失敗を許す空気が必要であり、間違っではいけないという窮地のプレッシャーを与えてしまっていることについて所見は。</p> <p>④学校は失敗しても間違っても安全な場所として取り組んでいるか。</p> <p>(2)「多様性」いう名の下に、放置をしていないかの検証と、憲法第26条に基づく教育を受ける権利について問う。</p> <p>①『かめおかまるごと「まなび」の保障構想』に、「不登校の要因・背景の追求だけでは、不登校対策にはつながりません」とあり、「学びたいと思った時に学べる環境を整え」と書いてある。児童生徒へのアンケート調査では「学校へ行きたかった」の回答が半数近くある。要因・背景の追求をしてこそ方向性が浮かび、対策を取れると考える。「多様性」という名の下に、学びが放置されていないか。</p> <p>②「学校へ行きたかった」は重要なメッセージであり、マジョリティとしてみんなといたいのである。本市として「普通教育を受けさせ、自立へ繋ぐ」という行政の役割をどう果たすのか。</p> <p>(3)「登校」に代わる「人と人との繋がり」の担保について問う。</p> <p>①人間関係やコミュニケーションを学ぶには、リアルな集団空間が最良であることも事実である。「登校をゴール」としないのであれば、それに代わるリアルな人間関係の訓練をどう担保するのか。</p> <p>②子どもたちが学びたいと思った時に学べる環境を整えるとあり、居場所づくりと寄り添う体制を掲げているのは、行政として、受け身ではないか。単なる自習室から人と繋がるクリエイティブな場へ整備し、待ち受けているのではなく、子どもたちが行きたくなるようなきっかけづくりについてはどのように考えているのか。</p>	
--	--	--	---	--

		<p>2 地域活性化 について</p>	<p>(4) 文部科学省は、不登校対策『COCOLOプラン』において、すべての児童生徒への学びの保障を掲げています。また、国の有識者会議等でも、これからの学校は「誰もが行きたく魅力ある学校づくり」を推進しています。対処療法的生徒指導からプログラムによる生徒指導として「不登校になる前のアプローチ」を岡山県総社市など多くの市町において、学校の変革を実施し、成果を得ている。</p> <p>①『かめおかまるごと「まなび」の保障構想』には、「だれいき（だれもが行きたくなる学校づくり）」の構想が入っているのか。</p> <p>②「なぜ逸脱するのか」ではなく「なぜ逸脱しないで済んでいるのか」という観点が重要と言われている。不登校の未然防止について所見は。</p> <p>③「不登校になる前のアプローチ」の未然防止の変革は、手遅れになる前にしなければならぬと考えるが所見を問う。</p> <p>(5) 『かめおかまるごと「まなび」ネットワーク』を掲げている。子どもたちを地域全体、社会全体で育てる集団へと進化させるためには、市民の意識を巻き込むことが重要であり、教育委員会が発刊する広報誌の必要性についてどのように考えているのか。</p> <p>宮前町猪倉にある「ききょうの里」は運営者が高齢であり人員不足でもある。観光客の減少により地域は益々過疎化が進行する。</p> <p>(1) 谷性寺門前地域の観光地からRMOなど広域の団体として活動する仕組みの提案はできないか。</p> <p>(2) 「ききょうの里」の課題は補助金などの資金問題ではなく人員の問題である。RMO内の団体活動と位置付けることで、繁忙時の人員募集やトリップワーカーの取り込みなども考えられるが所見は。</p>	<p>市長 所管部長</p>
--	--	-------------------------	---	--------------------

		<p>3 馬路町内の養豚場について</p>	<p>現在、亀岡市土づくりセンター横の養豚場では豚の飼育がされていないのが現状である。今後、どのような施設維持管理を計画しているのか。</p> <p>(1) 養豚場施設の管理及び維持の方法とスケジュールは。</p> <p>(2) 現存する養豚場の施設は活用するのか。活用する場合の方法は。</p> <p>(3) 養豚場施設内の浄化槽などの清掃及び撤去の計画は。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>4 街路灯の維持管理について</p>	<p>市内に街路灯が設置され、明るく安全で安心な通学路やまちづくりを目指して環境整備が進められている。</p> <p>(1) 毎年、梅雨から夏頃に街路灯のブレーカーに落雷が発生して街路灯が消える箇所があるが、修理や復旧に地元の負担が大きい。このことが、街路灯設置整備が進まない理由の一つとなっていると考えるため、自然災害による故障については、市が費用を負担して修理を行うことはできないか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>5 ナフサ不足による影響について</p>	<p>中東情勢の緊迫化による原油価格の上昇が報じられ、深刻なナフサ不足がプラスチックやゴム原料の供給に問題を生じさせている。</p> <p>(1) 亀岡市の指定ごみ袋が今後、不足した場合はどのような対応をとるのか。</p> <p>(2) 指定ごみ袋の代替品が必要になった場合は、どのようなものを想定しているのか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>6 亀岡市立保育所について</p>	<p>近年の犯罪状況を考えたとき、市内の保育所は警備体制があまり整っておらず、侵入可能な環境になっている保育所が多いと思う。</p> <p>(1) 安心な環境を整えるための抑止力として、亀岡市内の小、中学校と同レベルの守衛（門衛）が常勤する環境整備を進めてはどうか。</p>	<p>市長 所管部長</p>

7	<p>梅本 靖博 6月17日(水) 10:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 指定地域共同活動団体制度の展開について</p> <p>2 耕作放棄地と地域循環モデルについて</p> <p>3 人材育成と産業創出、地域づくりについて</p>	<p>人口減少・少子高齢化が進む中、ふれあい収集やめぐるステーションを活用した指定地域共同活動団体制度による地域の支え合い体制について問う。</p> <p>(1) ふれあい収集事業の現状と課題は。</p> <p>(2) ふれあい収集事業と指定地域共同活動団体制度との連携についての考えは。</p> <p>(3) めぐるステーション事業の目的と効果は。</p> <p>(4) めぐるステーションと指定地域共同活動団体制度との連携についての考えは。</p> <p>(5) 指定地域共同活動団体制度を活用した地域運営モデルを構築する考えは。</p> <p>耕作放棄地や森林荒廃が課題となる中、早生樹を活用した森林整備、脱炭素及び地域経済循環の取組について問う。</p> <p>(1) 耕作放棄地についての現状の認識と今後の方向性についての考えは。</p> <p>(2) 耕作放棄地を森林整備と連動させて、地域資源化することを検討する考えは。</p> <p>(3) 早生樹を活用した脱炭素型地域経済循環についての考えは。</p> <p>(4) 早生樹と脱炭素を教育・探究学習と連動させ、地域モデルとして検討する考えは。</p> <p>ローカル・ゼブラ企業の視点を踏まえた、人材育成と産業創出の統合的な地域づくりについて問う。</p> <p>(1) 産業創出、地域づくりの視点から、人材育成の現状と課題について、どのように認識しているのか。</p> <p>(2) オープンイノベーションセンター・亀岡を人材育成と地域課題の解決にどのように結びつけ、活用していくのか。</p> <p>(3) ローカル・ゼブラ企業の伴走支援として、地域商社「ONEかめおか」を活用した事業化・収益化の仕組みは。</p> <p>(4) ローカル・ゼブラ企業の創出に向けた、人材育成と産業支援の連携についての考えは。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 教育長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>
---	---	--	---	--

		<p>4 東部市民プール、野条公園等の整備について</p>	<p>東部市民プール除去及び跡地の活用に向けたワークショップの状況と今後の整備方針について問う。</p> <p>(1) 検討部会における現在の状況は。</p> <p>令和6年3月議会において、東部文化センター、東部児童館、東部市民プール及び野条公園等の一体的整備について質問した際、市長から東部文化センターは避難所でもあり、マンホールトイレについても必要性があるとの答弁があった。</p> <p>(2) 防災機能を備えた公園・地域拠点整備について、どのような方向性で検討しているのか。</p> <p>(3) 整備後の施設や公園について、地域住民や子どもたちが愛着を持てるよう、新たな名称を公募してはどうか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
8	<p>原野実生子 6月17日(水) 13:00~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 ガレリアかめおかについて</p> <p>2 保育所の環境について</p>	<p>土日祝日になると特に、ガレリアかめおかは子育て世代の利用者が目立ち、赤ちゃんを抱きながらの利用も多いと見受けられる。</p> <p>(1) 現在の授乳室内は、2組が利用できるようになっているが、どのくらいの頻度で同時利用されているのか。</p> <p>(2) 人の動線やベビーカーの入るスペース等を考慮し1名のみにするのはどうか。</p> <p>5月の末には夏日となり気温が上がる中、保育所やこども園では、子ども達が元気に遊びまわる姿が見受けられる。しかし気温が上がるにつれ、地面の温度は気温の10~15度高いと言われている。熱中症の可能性や、過度な日焼けを緩和するために対策が必要と考える。</p> <p>(1) 保育所やこども園で取り組まれている熱中症予防対策は。</p> <p>(2) 直射日光の中で遊ぶ子ども達の熱中症予防と保育にかかわる保育士の労働環境改善のために、グラウンドに日除シートを設置してはどうか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>3 かめおか児童クラブについて</p> <p>4 有害鳥獣被害について</p>	<p>かめおか児童クラブの対象児童の要件として出産の項目がある。</p> <p>(1) 既に児童クラブを利用している児童の中で、出産の要件で母親が産後3か月を経過し退会となる児童は何名いるのか。</p> <p>(2) 月齢6か月になると、夜にまとまって睡眠をとることができる赤ちゃんが増えてくる。母体への負担を考慮して、産後3か月以内から、6か月以内に要件を緩和してはどうか。</p> <p>令和7年12月議会で行政、地域、農家、猟友会が鳥獣被害防止に向けて、議論を行うため行政が意見を聞き取りできるような懇談の場を設けてはどうかと提案した。</p> <p>(1) 柵を設けても動物が入る現状を危惧するが、本市としての所見は。</p> <p>(2) 本市として柵のほかに農家ができる鳥獣被害対策はあるのか。</p> <p>(3) まずは現状の把握のために、地域によっては地域こん談会の農業版のような形態をつくれないうか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>
9	<p>片山 輝夫 6月17日(水) 13:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 平和教育の継続について</p> <p>2 イラン戦争による石油関連資材不足について</p>	<p>世界各地で悲惨な戦争が続き、収束することの難しさを露呈している。今こそ戦争をしないための平和教育を再認識すべきである。</p> <p>(1) 小・中・義務教育学校の広島・沖縄への平和学習について、改めてその意義は何か。</p> <p>(2) 同志社国際高等学校の辺野古学習について、文部科学省が教育基本法に違反したことで、平和教育が委縮するのではないかと不安の声がある。本市として平和学習を継続すべきと考えるが所見は。</p> <p>(3) 修学旅行経費は高騰しているが、平和学習補助金を拡充すべきではないか。</p> <p>ホルムズ海峡の封鎖により、石油の輸入量が激減し、石油関連品の不足や燃料費高騰で食料品をはじめ、様々な商品が軒並み値上げされ、市民生活に影響が出ている。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>3 自転車への交通反則通告制度について</p>	<p>(1) 建設業界、農業関係、医療・介護など多くの分野で資材不足が深刻であるとの声を聞くが、市は実態を把握しているのか。</p> <p>(2) 資材不足により、建設現場が停止もしくは遅延すると危惧する声もある。市発注の公共工事に影響は出ていないか。</p> <p>(3) 物価高騰で市民の暮らしは厳しさを増している。市として迅速な支援対策を検討すべきではないか。</p> <p>(4) 資材不足で事業者の営業も深刻になっている。コロナ禍のような支援策が必要ではないか。</p> <p>令和8年4月から自転車にも交通反則通告制度（青切符）適用が開始された。市民には回覧などにより周知徹底が図られたが、自転車利用者からは「中身がよく分からない」との不安の声が寄せられている。</p> <p>(1) 過去3年間の市内における自転車事故件数を把握しているのか。</p> <p>(2) 運転免許証返納などで自転車を利用する高齢者が増加している。今回の青切符制度の内容説明や運転実技などの講習会を市民が要望すれば開催できないか。</p> <p>(3) 違反や事故をなくすためには、自転車に優しい道路整備が不可欠である。歩道の段差解消や突出しているマンホールの改修など具体的な整備計画が必要ではないか。</p> <p>(4) 全国的に青切符制度を悪用した偽警察官による反則金詐欺事件が発生している。被害に遭わないため、市民に注意喚起をすべきではないか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>4 日常生活用具給付事業の要件緩和について</p>	<p>亀岡市障害児（者）日常生活用具給付事業の中に、在宅療養等支援用具として動脈血中酸素飽和度測定器（パルスオキシメーター）の給付がある。コロナ禍以降「低酸素状態の早期発見」の重要性が再認識され、京都市をはじめ近隣自治体では支給対象者の範囲が拡大されている。</p>	<p>市長 所管部長</p>

			<p>(1) 本市のパルスオキシメーターの給付対象者の要件は。</p> <p>(2) 全国で在宅酸素療法導入者は約17万人いると言われるが、市内の導入者数は把握しているのか。</p> <p>(3) 在宅酸素療法導入者も対象者とするよう見直すべきではないか。</p>	
10	<p>林 徹司 6月17日(水) 14:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 市役所開庁時間帯について</p> <p>2 全国都市緑化フェア in 京都丹波について</p>	<p>昨年、令和7年10月から令和8年3月を試行期間とし、その後先月5月より開庁時間帯が午前9時から午後4時30分に変更されたが、どのような変化や効果が市民側と職員側に表れているのか問う。</p> <p>(1) 運用前のアンケートでは57パーセントが時間変更を知らなかったとあった。また、68パーセントの市民に理解を得たとしていたが現在、市民からの反応は。</p> <p>(2) 行政側は重点施策に取り組む職員の増員を可能とした上で、今回の人事配置で具体化されたのか。</p> <p>(3) 働き方改革や提案意識の向上など、他にどのような効果が認められたのか。</p> <p>(4) 職員、何より市民福祉の増進のためにデジタル市役所を掲げているが今後、窓口業務のみならず拡大するにはAIや革新的な技術を導入する必要があるのでは。</p> <p>(5) 将来的にはどのような市民サービスのグランドデザインを描き導くのか。</p> <p>今秋に開催される全国都市緑化フェア in 京都丹波は大きな予算の上、2市1町が連携した重要なイベントとして準備が進められているが進捗状況を確認する。</p> <p>(1) イラン侵攻、ホルムズ海峡閉鎖による物価高騰は建築資材へも大きな影響を及ぼしているが開催への影響は。</p> <p>(2) 京都・亀岡保津川公園と亀岡運動公園の2会場において計画より大きな変更はないのか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

	<p>3 自転車の安全運転対策について</p>	<p>自転車青切符違反制度の実施がこの4月より始まった。違反行為は113項目もあり、理解不足で高校生が反則金詐欺などに遭った事例も発生している。</p> <p>(1) 今回の実施から本市においてトラブルや事件などの状況は。</p> <p>(2) 高校生の保護者の方から法令遵守を家庭でも指導しているが、「市から分かりやすい法規の説明教示を行ってほしい。」と声があり、取り組むことはできないか。</p> <p>(3) 本市は通行可能な歩道が少ないが、通学路における安全な自転車走行が可能な市道についての見解は。</p> <p>(4) 自転車も歩行者も安心して通行できる市道を今後、進めていく考えは。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>
	<p>4 高校生参画のまちづくりについて</p>	<p>これからの未来を担う高校生の主体性と自由な発想を生かし、まちづくりに取り組む市町も増えてきている。</p> <p>(1) 高校生参画の取組に対する所見は。</p> <p>(2) 栃木県小山市では高校生まちづくりプロジェクトとして高校生の企画に予算をつけ事業化しているが、本市も導入してはどうか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>
	<p>5 地域がつながる学校教育の環境整備について</p>	<p>小・中・義務教育学校において、現在学校教育の環境は、地域や学校の状況により規模や内容は異なっているが優先順にて整備が大きな事業として進められている。</p> <p>(1) 今年度、予算計上されている東輝中学校の整備事業の進捗状況は。</p> <p>(2) 多様な学びの場推進事業において様々な取組を進めているが、中学校の校内教育支援センターの設置を出来るところからでも加速してはどうか。</p> <p>(3) 教育に合わせ地域でもつながる場所として、自治会からも要望のある多目的ホールを設置する考えは。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>

	<p>3 地域包括ケアシステムのさらなる充実について</p>	<p>近年の少子高齢化により本市においても31パーセントを超える高齢化率となっている。高齢者の介護・福祉・保健・医療等を支援するため7ヶ所の地域包括支援センターを設置しているところであるが、要支援・要介護に至るまでに、早期予防に取り組むことが必要と考える。そこで地域包括ケアシステムの充実について問う。</p> <p>(1) 地域包括支援センターについて問う。</p> <p>①事業主体は。</p> <p>②専門員等配置状況は。</p> <p>③人員の充足状況は。</p> <p>(2) 亀岡市地域密着型サービス運営協議会及び地域包括支援センター運営協議会について問う。</p> <p>①構成メンバーは。</p> <p>②開催周期は。</p> <p>(3) 介護・看護人材の確保に向けた取組は。</p> <p>(4) 地域包括システムの現状と課題は。</p> <p>広島県尾道市では公立病院、地元医師会、薬剤師会等が中心となり地域介護の関係機関と一体となって在宅ケアシステムを構築され、看護・介護の重症化の防止に取り組んでいる。</p> <p>(5) 本市も地元医師会、薬剤師会等を中心としたケアシステムを構築すべきと考えるが所見は。</p>	<p>市長 所管部長</p>
	<p>4 ケアラー支援の充実について</p>	<p>近年においては障がい者はもとより高齢化の進展に伴い要介護者が増加している状況であり、身近で世話をするケアラーを地域全体で支える仕組みづくりが課題となっている。そこで本市におけるケアラー支援の充実について問う。</p> <p>(1) ケアラーがいる世帯は全世帯の何パーセント程度か。</p> <p>(2) 本市とケアラーがいる世帯との相談会等の取組状況は。</p> <p>(3) 世帯間同士の交流会状況は。</p> <p>(4) 自治会等における地域の高齢者見守り支援事業の取組状況は。</p> <p>(5) ケアラー支援の現状と課題は。</p>	<p>市長 所管部長</p>

			<p>(6) 京都市等でケアラーを支える取組として「ケアラー支援条例」が制定されている。本市も支援条例等を作成し支援の充実を図るべきと考えるが所見は。</p>	
12	<p>大塚 建彦 6月19日(金) 10:00~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 修学旅行の安全確保と中立性について</p> <p>2 地域限定保育士制度について</p>	<p>近年、修学旅行や平和学習では、戦争の悲惨さや命の尊さを学ぶ取組が全国的に行われている。一方、沖縄県名護市辺野古周辺での平和学習中に生徒の尊い命が失われる痛ましい船舶事故が発生した。教育活動においては、安全確保が最優先であり、同時に政治的中立性や多面的視点に基づく学びが求められることから、以下について問う。</p> <p>(1) 修学旅行や平和学習で利用する船舶やバス、体験活動に携わる事業者に対する、安全管理体制や法令遵守状況などの確認はどのように行っているのか。</p> <p>(2) 本市において、学校が旅行会社を介さず、市民団体や任意団体と直接契約・連携することはできるのか。また、ルールなどはあるのか。</p> <p>(3) 語り部やガイド、民間団体関係者を起用する際、政治的中立性や教育的公平性をどのように担保しているのか。</p> <p>(4) 戦争被害や基地問題だけではなく、安全保障環境や抑止力など、多面的視点による平和学習の実施についての見解は。</p> <p>(5) 組織的安全管理体制と責任の所在についてはどのように考えるのか。</p> <p>(6) 満州からの引き揚げに関する実体験など、地域に根差した平和学習を行うことにも意義があると思うがどうか。</p> <p>全国的に保育人材の不足が深刻化する中、保育現場では保育士確保が大きな課題となっている。令和8年3月議会で質問した、子育て支援員養成講座について、早速実施していただき感謝している。現在、国において保育士不足の解消に向け、地域限定保育士制度の一般化が進められている。</p>	<p>市長 教育長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>3 さくら有機堆肥の品質管理について</p>	<p>(1) 地域限定保育士制度について、本市としてどのように認識しているのか。</p> <p>(2) 地域限定保育士制度について、保育人材の確保策の一つとして、京都府に制度導入に向けた働きかけや協議を行う考えはあるのか。</p> <p>公益財団法人亀岡市農業公社において製造されている堆肥「さくら有機」は、本市の循環型農業を支える重要な事業として位置づけられており、市としても施設改修や機械設備の更新など多額の公費を投入している。一方で、令和5年には、「さくら有機」を散布した農地において、外来種である「掃き溜め菊」が大量発生し、農業被害に伴う補償問題が発生したという経緯がある。</p> <p>(1) 令和5年に発生した「掃き溜め菊」の大量発生について、亀岡市及び亀岡市農業公社は、発生原因をどのように分析し、整理しているのか。</p> <p>(2) 現在の「さくら有機」の製造工程において、どのような品質管理基準を設けているのか。</p> <p>(3) 堆肥製造工程における温度管理記録・作業日誌・発酵熟成管理記録などは適正に保存・確認されているのか。</p> <p>(4) 今後、同様の問題を生じさせないため、市として第三者的な品質確認や外部専門機関との連携を検討する考えはあるのか。</p> <p>(5) 「掃き溜め菊」に汚染された農地において、安全で安心して野菜づくりができるよう、どのような方策を考えているのか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>4 農業資材高騰と農家支援について</p>	<p>昨今の不安定な国際情勢や円安、原油価格の高騰により、肥料・農薬・燃油・ビニール資材など、農業経営に必要な資材価格が大幅に上昇している。特に新規就農者や、中山間地域における小規模農家や高齢農家においては、農産物価格への転嫁が難しく「作っても利益が残らない」との声も多く聞かれる。</p>	<p>市長 所管部長</p>

			<p>(1) 現在の肥料・農薬・燃油・農業資材などの価格高騰について、本市として市内農家への影響をどのように把握しているのか。</p> <p>(2) 新規就農者や高齢農家、小規模農家から補助金などの制度内容が複雑で申請が困難であるとの声もあるが、本市として利用しやすい支援体制を整備する考えはあるのか。</p> <p>(3) 本市が推進する有機農業や環境先進都市政策と連携し、持続可能な地域農業支援を強化すべきだと考えるが所見は。</p>	
13	<p>土岐 新 6月19日(金) 10:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 自治会・地域コミュニティについて</p> <p>2 地域包括ケアシステムの充実について</p>	<p>自治会は防災、防犯、見守り、伝統行事など地域を支える重要な基盤である。一方で加入率低下や担い手不足が進み、地域ボランティアだけでは限界が見えつつある。持続可能な地域コミュニティ維持へ市の支援強化が求められる。</p> <p>(1) 自治会加入率や役員不足について、市は現状をどのように認識しているのか。</p> <p>(2) 自治会だけで防災、防犯、見守りなどを担い続けることへの限界について、市の認識は。</p> <p>(3) 自治会役員の負担軽減やデジタル化支援をどのように進めるのか。</p> <p>(4) 伝統行事維持や新住民参加促進へ、市としてどのような支援を行うのか。</p> <p>(5) 自治会、NPO法人、企業、学校等との連携をどのように構築するのか。</p> <p>尾道市視察では、多職種連携や専門職育成の重要性を確認した。高齢化が進む中、重複服薬対策や医療・介護・福祉連携の強化は亀岡市にとって重要な課題であり、専門性を継続できる体制づくりが求められる。</p> <p>(1) 地域包括ケアシステムの現状と課題をどのように認識しているのか。</p> <p>(2) 重複服薬や多剤服用への対応をどのように進めているのか。</p> <p>(3) 医師会、薬剤師会、介護事業者などとの連携強化をどのように進めるのか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>3 教育補助員不足への対応について</p>	<p>(4) 専門職人材育成と専門性を継続して生かす配置をどのように進めるのか。</p> <p>(5) 地域包括支援センターの相談体制や見守り支援強化をどのように進めるのか。</p> <p>学校現場では支援を必要とする児童生徒が増える中、教育補助員の役割が重要となっている。しかし、人材不足により現場負担が増加しており、児童生徒への十分な支援体制確保が課題となっている。</p> <p>(1) 教育補助員の配置状況と不足の現状をどのように認識しているのか。</p> <p>(2) 教育補助員不足が学校現場へ与える影響をどのように把握しているのか。</p> <p>(3) 教育補助員確保に向けた処遇改善や支援体制強化をどのように進めるのか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>
		<p>4 部活動地域展開について</p>	<p>部活動の地域展開が進む中、子どもがスポーツや文化活動を通じて協調性や努力を継続する力を育む機会を失わないことが重要である。教育的価値をどう維持していくかが課題である。</p> <p>(1) 地域展開による活動機会や人間関係づくりの格差をどのように認識しているのか。</p> <p>(2) 部活動で培われた人間力を今後どのように育成していくのか。</p> <p>(3) 地域クラブに参加しない子どもの成長機会をどのように保障するのか。</p> <p>(4) 小学校教育へ新たな視点を取り入れる必要性について教育長の見解は。</p> <p>(5) 文化部を含む活動機会をどのように維持するのか。</p> <p>(6) 教職員の関わり方や負担軽減、安全管理をどのように進めるのか。</p> <p>(7) 地域指導者や補助員確保をどのように進めるのか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>

14	<p>山木 裕也 6月19日(金) 13:00~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 市長の政治 姿勢について</p>	<p>地域主体による花火大会は、地域コミュニティの活性化や交流人口の増加に大きく寄与しているが、運営費の高騰や担い手不足などにより開催が困難となる事例も見られる。地域の特色を生かした持続可能な花火大会の在り方について問う。</p> <p>(1) 本市における花火大会開催の現状及び開催目的は。</p> <p>(2) 花火大会開催に係る運営面、財政面及び安全対策上の課題は。</p> <p>(3) 自治会や地域団体などが主体となって開催する公募型・分散型花火大会に対する支援について、どのように考えているのか。</p> <p>人口減少や少子高齢化が進む中、地域と継続的に関わる「関係人口」の創出が重要となっている。国においても、地方創生の取組として「ふるさと住民登録制度（第2の住民票）」の推進が進められている。本市は全国に先駆けてふるさと住民登録制度を導入しており、多くの魅力ある地域資源を有する利点を生かし、亀岡ファンを増やしながらか関係人口の増加につなげていくことが重要であると考えます。</p> <p>(4) 亀岡市ふるさと住民登録制度の登録者数及び登録者の居住地域、年齢層並びに登録動機など現在の状況はどうか。</p> <p>(5) 全国の先行事例では、登録後の交流が継続しないことや制度の認知度不足、地域との関わりが深まらないことなどが課題として指摘されている。亀岡市として、どのような課題を認識しているのか。</p> <p>(6) 京都サンガF.C.サポーター、ふるさと納税寄附者、亀岡出身者、観光客、スポーツ・文化イベント参加者などを対象に、今後、どのように関係人口の拡大を図っていくのか。</p> <p>(7) 花火大会を活用した地域コミュニティの活性化、交流人口及び関係人口の創出に向けた今後の方向性についての考えは。</p>	<p>市長 所管部長</p>
----	---	---------------------------	--	--------------------

		<p>(8) ふるさと住民登録制度を単なる登録制度で終わらせないため、「亀岡ふるさと住民ファンミーティング」などを開催し、市民や事業者との交流を促進するとともに、地域活動やボランティア活動への参加につなげる仕組みづくりを検討してはどうか。</p> <p>(9) 将来の関係人口や移住・定住候補者を育成するため、全国の小中学生を対象とした「亀岡サマーキャンプ」や、保津川でのラフティングと河川美化活動を組み合わせた「エコラフティング」、農業体験、里山体験など、亀岡の自然や地域資源を活用した体験型プログラムを実施してはどうか。</p> <p>2 街路樹管理DXの推進について</p> <p>近年、全国各地で街路樹の倒木や落枝による事故が発生しており、市民の安全確保が重要な課題となっている。本市においても街路樹の老木化が進む中、令和5年12月議会では切株の安全対策や樹木の空洞化診断について提言を行った。その後、AI打音診断や空洞化診断装置、GISによる樹木台帳管理、ドローン点検など、デジタル技術を活用した街路樹管理が全国で進められている。限られた人員と予算の中で効率的かつ計画的な維持管理を行うため、街路樹管理DXについて問う。</p> <p>(1) 街路樹の管理状況及び安全点検の現状はどうか。</p> <p>(2) 老木化や倒木・落枝対策における課題は。</p> <p>(3) AI打音診断、空洞化診断装置、GIS管理、ドローン点検などの先進事例に対して、どのように認識しているのか。</p> <p>(4) デジタル技術を活用した予防保全型の街路樹管理の可能性についての考えは。</p> <p>3 公共スポーツ施設の利便性向上について</p> <p>行政手続のデジタル化やキャッシュレス化が進む中、市民が利用する公共スポーツ施設においても、利用者の利便性向上が求められている。テニスコートやグラウンドなどについては、社会体育や健康づくりの場として多くの市民が利用しており、施設予約や利用料金の支払い手続の簡素化が期待される。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>
--	--	---	---------------------------------------

			<p>(1) 都市公園内の施設及び社会体育施設における利用料金の支払方法の現状と課題、並びに支払手続のデジタル化についてどのように認識しているのか。</p> <p>(2) QRコード決済やオンライン決済を導入し、テニスコートやグラウンドなどの現地でQRコードを利用して、スマートフォンで予約から決済まで完結できる仕組みを導入してはどうか。</p>	
15	<p>三上 泉 6月19日(金) 13:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 子ども版「防衛白書」の学校配布について</p>	<p>今年2月に市内の小・中・義務教育学校に、防衛省作成の、子ども版「防衛白書」である「まるわかり！日本の防衛」（2025年版）が配布されたと聞く。学校教育の場にはふさわしくないとの声が多く、防衛省や文部科学省に対して学校へ配布しないよう申し入れがされており、防衛省も学校への配布の方針を決めていない中で、本市は京都府内で唯一、全国的にも数少ない配布自治体となっている。</p> <p>(1) 各学校に配布された経緯とその後の取扱いはどうであったか。</p> <p>(2) この冊子を児童生徒の目に触れさせること、すなわち、学校教育における教材として活用することについては、数々の問題が指摘されているが、どのように考えているのか、以下の点での所見を問う。</p> <p>① アメリカをはじめとする同盟国・協力国を「仲間」と表現し、特定の国を「価値観を共有しない国家」として、その軍事活動を取り上げて「脅威」のように記述しているが、全ての国を尊重し、武力や軍事力を用いずに良好な関係を築くことこそ目指す姿であるという、本市の目指すべき世界連邦の考え方に反するのではないか。</p> <p>② 自衛隊の活動以外にも、入隊後の処遇やキャリアプランの解説を付けていることや文章表現からも実質的に自衛官勧誘や就職情報につながる内容となっており、国際的な条約にも違反しているのではないか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>

		<p>2 市民の移動権を守る公共交通について</p>	<p>この件にとどまらず、学校には教育委員会の 送送棚に外部団体から様々な配布物が入れら れ、チェックができないまま学校に届くと聞 く。ただでさえ、多忙で過密な勤務となってい る学校からは悲鳴の声が上がっている。</p> <p>(3) もう少し制限や配慮が必要ではないか。 とりわけ市役所内の他の所管部課からは留 意すべきではないか。</p> <p>(4) 様々な配布物や掲示・展示、コンクール やイベントへの参加・協力依頼などが学校 に寄せられるが、外部からはもちろんのこ と教育委員会であっても一律に強制するも のではなく、学校の教育課程編成は各学校 にあるので、対応を決めるのは各学校であ ることに間違いはないか。</p> <p>市民の移動権は生存権であるとして、その保 障はまちづくりの重要課題であることを、市も 認識を共有しているものと確認してきた。住民 の移動権保障によろやく国土交通省も本腰を上 げつつある中で、新たな可能性や特例的な措置 も提案し始めている。本市議会では、先般5月 22日に公共交通対策特別委員会が開催され、 担当部課から令和7年度の実組状況と令和8年 度の実組課題について報告を受けている。</p> <p>(1) 特別委員会で提示された資料によると、 篠地区のコミュニティバスの利用人数は、 年々増加している。令和6年度と比べた令 和7年度の増加分は、ほぼ、昼間時間帯で あることから、通勤・通学よりも、様々な 理由での「お出かけ」でのニーズが高まっ ていると推測できるが、市はどのように分 析しているか。</p> <p>(2) 昼間時間帯にバスを利用する市民から は、市役所やギャラリーかめおかまでの直通 を望んでいる声が多い。また、コミュニテ ィバス運行経路地域以外の地域からも、 「ギャラリーかめおかで午前10時から催し 物や教室があっても、都合のよいバスがな いから困っている」という声が多い。篠地 区コミュニティバスの市役所・ギャラリーか</p>	<p>市長 所管部長</p>
--	--	----------------------------	---	---------------------------

			<p>めおかまでの延伸と、各地域から市役所やガレリアかめおかまで直通で行ける交通の充実は喫緊の課題であるが、対応策の検討はどの程度進んでいるのか。</p> <p>(3) この間、一貫して、運転手不足や民間の経営問題、自治会や地域団体の力量などに左右されない市直営の無償デマンド交通などの展開を将来的なビジョンとして提案している。地元の事業所を応援して共存共栄することは大事だが、遠くない将来に、いつ、事業所の撤退や営業形態の変更の可能性もなくはない。それでも市としては市民の移動権を保障するために、現在の計画の更新に向けて、あらゆる可能性を探るべきである。そろそろ本腰を入れるべきではないか。</p>	
	3	<p>ボール運動などができる場づくりについて</p>	<p>本市は、スタジアムを中心にしたスポーツを通じてのまちづくりをうたっているが、子どもたちがボールを使って自由に遊べる公園や広場、運動場が、自分たちの居住地の近くにはあまりないというのが現状ではないだろうか。特に亀岡東部など人口の多い地域では、子ども一人あたりの公園や広場の面積は足りていない。また、グラウンドゴルフなど高齢者のスポーツ交流の場も要望の声が強い。保津川右岸の活用の際に、運動場や多目的広場を加えるべきだと以前から提案している。</p>	<p>市長 所管部長</p>
	4	<p>誰もが行きたくなる学校づくりについて</p>	<p>不登校や問題行動の出現率が高いことに危機感を感じて、大学とも連携して提供された理論に基づいた不登校、問題行動の未然防止に向けた学級集団づくりを中心にした「だれもが行きたくなる学校づくり」を、市を挙げて全ての学校で取り組むことで、出現率を激減させた岡山</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>

		<p>県総社市に、市議会総務文教常任委員会として行政視察調査を先日行った。平成22年から令和6年までの間、中学校の不登校出現率が全国平均で2.74パーセントから6.79パーセントに急速に上昇しているのに対し、総社市では3.63パーセントから2.71パーセントに低下している。成果が数値結果として確かに出ている取組に衝撃を受けた。同時に、委員からは「ほとんど予算をかけずにこれだけの成果をあげられるならぜひ亀岡でも取り入れるべきだ。」「そんなに難しいことでも、特別なことでもなく、子どもたちに任せて、自分でできる力、友だち同士で支える力を付けるという、昔からある本来の学校の姿に戻していけばよいのでは。」との声も出された。</p> <p>(1) 本市において、不登校児童生徒の学ぶ権利を守り、それを保障する場づくりに力を入れていることは理解しているが、そもそも不登校の出現率を下げて、誰もが楽しく学校に通えるようにするための、学校づくりの抜本的な改革について、本市としてどのような努力をされているのか。</p> <p>総社市の「だれもが行きたくなる学校づくり」の取組は、いくつか大学の先生方の理論的アドバイスをもとに、全ての学校・園で、全ての子どもに自分でできる力と友だち同士で支える力を付け、支持的風土のある学級づくりによって良質な人間関係をつくるという、開発的・包括的生徒指導を、全ての学校で全ての教職員によって、また、保護者、地域の協力を得て取り組まれている。あくまで一つの参考例として受け止めていただきたいが、その着眼点や手法(4つの柱)である、①「ピア・サポート」、②「SEL (Social and Emotional Learning) (社会性と情動の学習)」、③「協同学習」、④「品格教育／PBIS (Positive Behavioral Interventions and Supports) (肯定的な行動介入と支援)」は、本市でも大いに生かすべきだと考える。</p>	
--	--	---	--

		<p>5 学校・園における照明のLED化について</p>	<p>(2) 日常的な教科学習や特別活動に上記の4つの柱を織り込むと同時に、特別に時間を確保してこだわった取組をされている総社市の実践に対する所見は。</p> <p>(3) 一人一人の学びの場を保障する取組と同時に、総社市のような取組こそ求められているのではないかと感じるが、本腰を入れて取り組むべきではないか。</p> <p>(4) 市内の全ての学校・園がそれぞれの特色を生かしながら、誰もが行きたくくなるような学校づくりを一斉に進められるよう、先進地の実践例を調査・検討し、各校・園をサポートする体制を教育部としてつくれるか。</p> <p>地球の環境を守るために、来年からは蛍光灯や水銀灯の製造・輸出入が禁止される。市役所庁舎は全ての照明がLED化されたが、市内の学校はそうっていない。以前の質問では、保育所・こども園は令和7年度中に完了するが、学校については整備計画に基づき順次交換するという答弁だった。世界に誇れる環境先進都市であり、かつ、子どもファーストであるため直ちに完了を求めてきた。</p> <p>(1) 学校におけるLED化完了はいつになる予定か。</p> <p>(2) 前倒しで、直ちに完了すべきではないか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>
16	<p>山本由美子 6月19日(金) 14:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 高次脳機能障がい者支援について</p>	<p>脳卒中や交通事故などで脳が損傷し、思考や記憶、言語などの脳機能に支障が出る「高次脳機能障がい」は、外見からは分かりにくいため、「見えない障がい」とも呼ばれている。その特性への理解が十分進んでいないなどの理由から、当事者や家族は適切な支援を受けることができず、日常生活や社会生活に困難を抱えているとの指摘がある。こうした中、令和8年4月1日に「高次脳機能障害者支援法」が施行された。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>

		<p>(1) 本市において、高次脳機能障がいの診断を受けている方の人数及びその推移や傾向について、本市の認識は。</p> <p>(2) 自治体に対し、総合的・計画的な施策の策定・実施及びその実施状況の公表に努めることが求められているが、本市として今後どのように取り組んでいくのか。</p> <p>(3) 次期計画である「第5期亀岡市障がい者基本計画」及び「第8期亀岡市障がい福祉計画」の策定に当たり、当該障がいへの支援についてどのような具体的内容を盛り込んでいく考えか。</p> <p>(4) 本市における窓口相談の現状と課題を問うとともに、関係機関の緊密な連携による相談体制のさらなる整備に向けた取組は。</p> <p>(5) 障がいの特性に関する市民の理解を深めるため、学校や地域、職域など様々な場を通じて、今後どのような広報及び啓発活動を展開していくのか。</p> <p>(6) 行政窓口や現場の職員、専門職（ケースワーカー、保健師、学校教員など）が初期の段階で「気づき」や適切な対応ができるよう専門性を高める研修について、実施状況と今後の計画は。</p> <p>(7) 教育現場における当該障がいへの理解や、児童生徒に対する支援体制の整備について、具体的な取組は。</p> <p>(8) 医療、福祉、保健、教育、労働などの関係機関が横断的に連携するネットワーク体制について、本市はどのように構築・強化していくのか。</p>	<p>令和4年度に導入された「リフィル処方箋」は、症状が安定している患者で一定の要件を満たした場合、医師が定めた期間内に最大3回まで繰り返し使用可能な処方箋である。本制度は、市民の通院負担軽減や待ち時間の短縮、さらには医療費の適正化にもつながる重要な取組である。しかし、導入から数年が経過した現在も市民の認知度は低く、十分に活用されているとは言えない現状がある。</p>
	<p>2 リフィル処方箋の周知と活用促進について</p>		<p>市長 所管部長</p>

		<p>(1) 本市におけるリフィル処方箋制度の認知状況及び実際の利用・発行状況は。</p> <p>(2) 市民や保険者が本制度を利用するメリットや留意すべき注意点について、本市の認識は。</p> <p>(3) 本制度の周知に向け、本市では現在どのような取組を行っているのか。</p> <p>(4) 制度のさらなる普及に向け、地域の薬局（薬剤師）から患者への積極的なアプローチを促すなど、関係機関との連携体制を構築すべきと考えるが、見解は。</p> <p>(5) 市民の利便性向上や医療費の適正化に大きく寄与する本制度について、今後のさらなる活用促進に向けた本市の基本方針は。</p> <p>3 公共ライドシェアの導入について</p> <p>バス事業を取り巻く全国的な運転士不足などを背景に、平成17年より運行を開始しているふるさとバス「別院コース」について、現行路線を維持することが極めて困難な状況に直面している。市は新たな交通空白地が生じることを防ぐため、亀岡市が事業主体となる自家所有償旅客運送（公共ライドシェア）への転換方針を示した。地域住民の移動の足を確実に守り、より利便性の高い公共交通の構築が望まれる。</p> <p>(1) ふるさとバス「別院コース」の利用実態は。</p> <p>(2) 対象地域の住民や関係組織への説明及び情報共有の現状は。</p> <p>(3) 今後実施予定のアンケート調査について、実施時期や対象者、具体的な調査内容はどのように考えているのか。</p> <p>(4) アンケート調査で得られた住民ニーズや意向を、今後の「具体的な運行手法」の検討にどのように反映させていくのか。また、運賃体系の考え方はどうか。</p> <p>(5) 新たな運行体制への転換に向け、今後の具体的なタイムスケジュールは。</p> <p>(6) 公共ライドシェアへの転換に当たり、住民の声を反映した最適な手法を選択することで、従来のバスに比べて、運行ルートやダイヤ設定などの「利用者の自由度（利便</p>	<p>市長 所管部長</p>
--	--	--	--------------------

			性)」が向上すると考えるが、市としての 見解は。	
17	法貴 隆司 6月19日(金) 15:30~ ※一問一答	1 環境課題に ついて	<p>脱炭素社会の実現や資源循環型社会への転換が求められる中、木質バイオマスや農業残渣など地域未利用資源の有効活用が全国的な課題となっている。本市においても森林整備に伴う間伐材や農業由来の未利用資源が存在しており、地域内循環による資源活用や環境負荷低減への期待が高まっている。</p> <p>(1) 本市における間伐材、もみ殻、剪定枝等の未利用バイオマス資源の現状把握と利活用状況は。</p> <p>(2) 株式会社ガイア環境技術研究所では、SUMIXを活用し、高品質なバイオ炭を安価に製造している。本市においても、地域未利用資源を活用したバイオ炭事業を研究する考えはあるのか。</p> <p>(3) バイオ炭は、土壌改良や炭素固定による脱炭素化にも寄与するとされるが、本市の環境政策や農業政策との連携についての見解は。</p> <p>(4) 森林整備で発生する間伐材等を地域内循環させる地産地消型バイオマスの構築についての見解は。</p> <p>(5) 農事組合法人丹波畜産協同組合跡地活用について、バイオ炭を含めた地域循環型バイオマス事業として発展させる考えは。</p>	市長 所管部長
		2 地域課題に ついて	<p>地域では道路や水路、カーブミラー、通学路安全対策など、インフラの老朽化や生活環境に関する課題が多く寄せられている。特に、高齢化や交通量増加に伴い、安全・安心な地域づくりへの対応が急務となっており、住民要望を踏まえた計画的かつ迅速なインフラ整備が求められている。</p> <p>(1) 中学生の通学路でもある市道犬飼西条線の路肩が崩落し危険な状態であるが、拡幅も含め補修できないか。</p> <p>(2) 市道山ノ下重利線がいまだに未舗装であるが舗装できないか。</p>	市長 所管部長

		<p>3 有害鳥獣対策について</p>	<p>(3) 関西盲導犬協会への唯一の進入路である、市道曾我部西別院線にかかる河内橋は築70年が経過し、老朽化が著しいが補修対応できないか。</p> <p>近年、本市でも鹿やイノシシ等による農作物被害が深刻化している。捕獲後の処理だけでなく、ジビエとして地域資源化し、農業振興や地域ブランド化につなげる循環型の有害鳥獣対策が全国的に進められている。</p> <p>(1) 宮城県大崎市のジビエ食肉処理加工等施設では、廃校施設を活用した公設民営方式による施設運営を行っている。本市においても、未利用公共施設を地域資源活用拠点として利活用する可能性についての見解は。</p> <p>(2) 有害鳥獣対策を農業被害対策だけでなく、観光・飲食・地域ブランド化と連携させる必要があると考えるが、地域商社「株式会社ONEかめおか」を中心とした本市の今後の方向性は。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>4 南郷池について</p>	<p>南郷池において、放置された釣り糸にフクロウが絡まり死亡する事故が発生し、新聞報道もされた。地域住民や自然保護団体からは、釣り糸やごみの放置などへの改善を求める要望書が提出されている。南郷池は貴重な自然環境を有する場所であり、人と自然が共生できる環境保全対策が求められている。</p> <p>(1) 南郷池周辺では、放置された釣り糸やルアー、ごみ問題が以前から指摘されているが、現状把握と環境保全上の課題についての認識は。</p> <p>(2) 釣り禁止条例の措置や注意喚起看板の設置、巡回強化などの対策を検討しては。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>5 消防資機材について</p>	<p>近年、全国各地で消火栓ボックス内に配備されている筒先や媒介金具等の消防資機材が盗難される事案が相次いでいる。これらの資機材は火災発生時に地域住民や消防団が初期消火活動を行うための重要な設備であり、盗難によって</p>	<p>市長 所管部長</p>

		<p>6 障がい者福祉について</p>	<p>使用不能となれば、市民の生命、財産に重大な影響を及ぼしかねない。</p> <p>(1) 亀岡市内には消火栓ボックスが何か所設置されているのか。</p> <p>(2) 過去5年間に盗難や紛失等の事案は何件発生しているのか。</p> <p>(3) 盗難防止のための対策は現在どのように行われているのか。</p> <p>(4) 全国では管理番号の刻印や防犯ステッカーの貼付などが実施されているが、本市の考えは。</p> <p>(5) 盗難抑止のため、アルミ製等への計画的な更新を検討してはどうか。</p> <p>障がいのある方が地域で安心して暮らし続けるためには、移動支援を担うガイドヘルパーの存在が不可欠である。しかし近年、福祉現場では人材不足や高齢化、制度上の制約により、支援体制の維持が困難になりつつある。</p> <p>(1) 現在、ガイドヘルパー研修は市外での受講が中心であり、時間的・経済的負担が課題となっている。本市独自の移動支援従業者養成研修の開催や、近隣自治体・事業者との連携による研修体制の構築についての見解は。</p>	<p>市長 所管部長</p>
<p>18</p>	<p>平本 英久 6月22日(月) 10:00~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 市長の政治姿勢について</p>	<p>昨年の市制70周年に引き続き、本年は全国に先駆けて都道府県や政令市以外で初めて「全国都市緑化フェア in 京都丹波」を開催する本市であるが、これまでも頑張る子育て世代を応援するための「子どもファースト」を宣言するなど常に市民の声に寄り添い、企業・団体等と連携して先進的な取組を進めて来た中で、桂川市長が目指す本市の姿について問う。</p> <p>(1) この度行われたウクライナトルスカヴェーツ市訪問の目的は。</p> <p>(2) 現在、ウクライナは戦時下にあるがトルスカヴェーツ市の状況はどうであったか。</p> <p>(3) 今回のトルスカヴェーツ市訪問はどのようなものであったのか。またどのような成果を見込んでいるのか。</p>	<p>市長</p>

		<p>2 環境先進都市としての新たな取組について</p>	<p>(4) 市の鳥として制定したコウノトリ並びにイカルチドリであるが、本市として保護に向けた考え方は。</p> <p>(5) イカルチドリは保津川河川敷に生息していると聞くが現状と課題はどうか。</p> <p>(6) 北陸新幹線の誘致に向けたこれまでの取組は。</p> <p>(7) 北陸新幹線の誘致に向けた今後の取組は。</p> <p>環境先進都市を目指し、これまでも様々な民間企業との連携協定や自治会との協同事業を行うなど先進的な環境政策に取り組んできた本市であるが、現状と今後の取組について問う。</p> <p>(1) 現在、世界紛争などに起因してナフサの調達が困難であると聞くが、本市の指定ごみ袋への影響はどうか。</p> <p>(2) 市民の理解と協力により行われているプラスチックごみの回収であるが、再資源化に向けた新たな取組はどのようなものか。</p> <p>(3) 吉川町にオープンした「めぐるステーション」であるが今後の展開をどのように考えているのか。</p> <p>(4) 「犬と暮らしやすいまち亀岡」として、これまでマナーアップをコンセプトにした冊子の発刊やわんわんフェスタの開催を行ってきたが、本年行う事業はどのようなものか。</p> <p>(5) 本市で行っている家庭用廃油の回収状況とSAFとしての再資源化に向けた取組はどうか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
		<p>3 子どもファースト宣言に基づく取組について</p>	<p>子どもファースト宣言を行い、常に子育てする世代に寄り添い子育て支援の拡充に努めてきた本市であるが、現状と今後の取組について問う。</p> <p>(1) 本市における待機児童と潜在的待機児童の現状と対策はどうか。</p> <p>(2) 子育て世代を対象とした各種申請手続の現状はどうか。</p> <p>(3) 子育て世代を対象としてオンライン申請を拡充する考えは。</p>	<p>市長 所管部長</p>

		<p>3 人口減少時代の地域戦略について</p>	<p>人口減少が進む中、国は「関係人口」や「二地域居住」の拡大を進めている。亀岡市の取組も踏まえ、現状認識や今後の方針、受入体制、官民連携について戦略を問う。</p> <p>(1) 人口減少・高齢化の中、空き家は今後さらに増加し、地域価値やコミュニティにも影響すると考えるが、本市の現状認識と今後の見通しは。</p> <p>(2) 空き家バンク中心の受け身型施策だけでは限界もある中、二地域居住、関係人口、ふるさと住民登録制度などと連動した、空き家の戦略的活用が必要と考えるが、本市の考えは。</p> <p>(3) 本市は空家管理活用支援法人制度について、制度周知にとどまらず、専門性を持つ民間団体の指定・募集や、官民連携体制の構築を具体的に進める考えは。</p> <p>(4) ふるさと住民登録制度について、単に登録者数を増やすだけでなく、登録者を関係人口、二地域居住、移住、空き家活用へとつなげる具体的な導線設計が必要と考えるが、本市の考えは。</p> <p>(5) 現在の相談会等の取組にとどまらず、空き家になる前から気軽に相談でき、相続、登記、管理、活用、移住、二地域居住まで一体的につなぐ、官民連携型の常設ワンストップ窓口を検討すべきではないか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
20	<p>西口 純生 6月22日(月) 13:00~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 市長の政治姿勢について</p>	<p>北陸新幹線について、当初計画を策定する中で当時総理大臣の田中角栄氏が示したのが亀岡ルートであり、その理由としてはJR東海道線などの幹線交通網が災害などによって破壊された時の対応策として、日本海側で東京～小浜～新大阪駅をつなぐルートとして線引きされたものであった。日本海側のルートを早期かつ安価で次代に負担をかけずに整備することは、東京から新大阪駅を結ぶとともに、バランスがとれた日本海側沿線地域の活性化につながるものとして提案されており、この7月に与党整備新幹線建設推進プロジェクトチームでルートが決定されるが、そのことが喫緊の課題となっている。</p>	<p>市長</p>

		<p>2 全国都市緑化フェア in 京都丹波について</p>	<p>(1) 北陸新幹線亀岡ルートの誘致は、どのような戦略で行われているのか。</p> <p>(2) 京都市出身の国会議員は、今も京都駅を経由するルートを望んでいる。より効果的な賛同者を得るための戦略として、確かな妙案を求めたいと考えるがどうか。</p> <p>(3) 私見であるが、亀岡市に新駅ができれば、新大阪まで約15分で行けるようになり、数兆円の経費節減も図れるようになると思うが、市長の見解は。</p> <p>今年は「全国都市緑化フェア in 京都丹波」が2市1町で開催され、世界的にも名が知れたイギリス国王チャールズ三世が会長を務めている英国王立園芸協会主催のチェルシー・フラワー・ショーで多くのメダル受賞をされている石原和幸氏が、企画・出展されると伺っている。新しい展開ができるが、作品の企画や展示の概要はどのようなものになるのか、出展される石原氏の人物像などを含めて確認したい。</p> <p>(1) 石原和幸氏は、これまでどのような功績を挙げてこられたのか。</p> <p>(2) 同じく英国王室の出展者で特別賞受賞のジェームズ・ドーラン・ウェッブ氏の作品も、亀岡市で出展されると聞いているが、どのような作品を出展するのか。</p> <p>(3) このような形の緑化フェアは、例がないのではないかと。それぞれが王室とのつながりがある出展者で、市長の期待度も高いと思うが見解はどうか。</p>	<p>市長</p>
		<p>3 角倉了以・素庵の顕彰について</p>	<p>今年は、保津川開削420年を迎え、開削した角倉了以・素庵の顕彰委員会を立上げ、親子の偉大さをどのように評価していくかということについて協議を重ねてきた。近江商人の流れを汲む吉田庄の吉田氏を名乗り、京の嵐山渡月橋上流左岸に移り住んだ了以翁は「京は都であるにも関わらず、港がない不便に気づけ」と吉田一族を諭し、川を道とした「流通革命」を興す計画を一族に論じ、理解を得て保津川開削に着手した。保津川開削は、慶長11年に着手し、</p>	<p>市長</p>

		<p>4 子どもたちの英国王室との夢実現について</p>	<p>半年で嵐山まで完成させた。次に、高瀬川を開削し伏見港につながれば大阪湾につながる。上流は日吉まで開削し、一部陸送して由良川につながれば、舟運で日本海につなぐことができる。川を道として大量の物資を短時間で流通させる「流通革命」で新時代を築き上げる。舟運によって多くの人の暮らしが豊かになる。この信念を持って、交易で資金を集め、幕府には1銭も出させずに、保津川開削を完成させて420年を迎える。そこで、顕彰事業として、昨年に「角倉了以・素庵の顕彰フォーラム」を開催したが、当初は「秋頃に文化資料館で角倉了以の展示を行う」としか聞いてなかった。</p> <p>(1) 顕彰委員会の意見を取り入れる考えはあるのか。</p> <p>(2) ベトナムのトンキン（現：ハノイ）または、ホイアンと姉妹都市・友好都市盟約を結ぶ意思はあるか。</p> <p>(3) 京都文化創生機構 富士谷あつ子理事長は、了以・素庵の功績は、地球規模の偉人とまで表現され高く評価されている。顕彰委員会として、亀岡市として、角倉了以・素庵をNHK大河ドラマに取り上げてもらうよう、市長から要請していただけないか。</p> <p>英国王室へ「一緒に保津川下りしませんか」と手紙を送って20年目となる。今回、子どもたちが再度、夢を実現するため、全国都市緑化フェアで作品を出展する石原氏に保津小学校での講演を依頼したが、それらも含め確認したい。</p> <p>(1) 保津小学校で石原氏が講演する日程と、どのような内容なのか確認したい。</p> <p>(2) 石原氏とジェームス氏の作品が出展されるのであれば、この機会に2人と市長と一緒に秋の保津川下りを体験していただき、山々の景色の素晴らしさや急流の醍醐味を感じてもらってはどうか。</p>	<p>市長</p>
--	--	------------------------------	--	-----------

			<p>(3) 王室とつながりがある2人から王室の方に保津川下りの素晴らしさを伝えていただければ、王室も早く保津川下りに行きたいと思ってくれるのではないかと思うが見解は。</p> <p>(4) 英国王室と保津小学校の子どもたちとの夢の保津川下りが実現できれば、これをきっかけに、来る・来ないは分からないが、イギリス国王チャールズ三世の保津川下り実現の道へとつながり、子どもたちが王室の心を動かしたと、世界中にこの話題が流れると思うが、市長の所見は。</p>	
21	<p>齊藤 一義 6月22日(月) 13:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 6月補正予算について</p> <p>2 亀岡農業者の所得向上について</p>	<p>令和8年度亀岡市一般会計補正予算(第1号)補正額4億470万円のうち、商工費の商工業振興対策経費1億758万6千円が計上されている。</p> <p>(1) その主な内容と本市経済効果は試算されているのか。</p> <p>亀岡の農産物は古くから京都の台所に供給されており、近年では亀岡産の使用をアピールして提供されているなど、亀岡は京野菜の宝庫である。この度、本市は株式会社京善と包括的連携協定を締結した。同社のヴィーガン食品生産拠点を誘致していくとあるが、それをどのように本市活性化につなげていくのか、また、どのように農業生産者の所得向上につなげていけるのかを問う。</p> <p>(1) 有機農産物を活用したヴィーガン食品の開発が地域の有機農業者の増加につながるのか。</p> <p>(2) オーガニックとヴィーガンの相乗効果による高付加価値化を生産者にアピールするべきだと考えるがどうか。</p> <p>(3) 亀岡のテロワール「土地や風土を意味し、その土地特有の霧の深さから生み出される農産物の味わいや品質に与える影響や個性」をどのように発信するのか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>

		<p>(4) 環境先進都市として、サステナブル・ガストロノミーをどのように構築していくのか。</p> <p>(5) ヴィーガンを含め、ローカル・ガストロノミー・ツーリズム等、オーガニック食やヴィーガン食提供店巡りツアーの「亀岡フードツーリズム」の考えは。</p> <p>(6) 環境先進都市として「体内環境No.1健康都市宣言」や「ヴィーガン首都宣言」をしてはどうか。</p> <p>3 犯罪抑止と防止について</p> <p>栃木県上三川町で令和8年5月に発生した強盗殺人事件は残酷であり、特に現役の高校生が関わっていたことも衝撃である。本市における今年4月までの犯罪情報によれば、軽犯罪認知件数は103件で、前年同月より36件増加している。また、特殊詐欺件数も4件で、その被害額は、9,661万円と高額であり、内訳はニセ警察、投資詐欺、ロマンス詐欺である。</p> <p>(1) 使い捨てされ、一生人生を棒に振らないように若者への啓発はどのように取り組むか。</p> <p>(2) 高齢者への注意喚起やSOS相談受付の考えは。</p> <p>上三川町では、事件前に不審車両が目撃され、地域や住民が注意を払っていたが事件は起こった。</p> <p>(3) 市民の生命・財産を守るため、防犯灯の設置、地域における防犯意識の向上、見守り機能となる隣組の強化、警察との相互協力が必要と考えるがどうか。</p> <p>4 公共ライドシェアについて</p> <p>この度、国土交通省の令和8年度「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクトで、亀岡市ふるさとバス廃止路線の代替としての公共ライドシェア事業が採択された。</p> <p>(1) 地元と廃止路線の協議を行っているのか。</p> <p>(2) 現在、公共定期バスが乗り入れていない地域への乗り入れ予定について、地元の意向はどうか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>
--	--	--	---------------------------------------

		<p>5 文化財保護について</p> <p>6 平和教育について</p>	<p>(3) バスが小型化することに伴って、各路線を全てフリー乗車にしてはどうか。</p> <p>(4) 事業や運行主体は本市と京阪京都交通であるが、通学バスのドライバーの利活用も考えてはどうか。</p> <p>この度、東別院町東掛にある春現寺の大般若経が、京都府暫定登録文化財（書跡・典籍）に登録された。</p> <p>(1) 大般若経の保存・修復を本市として行うべきではないか。</p> <p>本市の学校教育における平和教育について問う。本年3月16日、沖縄県名護市辺野古沖で発生した転覆事故では尊い若い命が奪われた。そこで問題になっているのが「政治的中立違反」である。教育基本法第14条第2項は、「法律に定める学校は、特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない。」と規定している。</p> <p>(1) 本市において、特定の政治的立場や政党活動をされている方が教育現場におられると、教育の政治的中立性が損なわれ、平和教育が偏った指導になっているのではないかと心配する声を市民から聞くがどうか。</p> <p>(2) 本市の修学旅行は、小学校は広島へ、中学校は沖縄へ平和教育を目的に訪れるが、修学旅行の事前学習は教育基本法にのっとり中立に行っているのか。</p> <p>市長は戦時中であるウクライナトルスカヴェーツ市へ訪問されたが、大規模な軍力を有するロシアの一方的な侵略に立ち向かって4年3か月が過ぎ、今も必死に戦っている。</p> <p>(3) 現在も続いている武力衝突の中で、ウクライナの国民は何を守るために戦っていると市長は感じたのか。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 教育長</p>
22	<p>福井 英昭 6月22日(月) 14:45~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 クニッテル通りの改修について</p>	<p>J R 亀岡駅の南側、駅前交差点から光秀広場までの間の歩道拡幅、また3車線化について問う。</p>	<p>市長 所管部長</p>

		<p>(1) この区間については、歩道を広げることと、南北に右折レーンを設けることで3車線化していくということであったが、間違いはないか。</p> <p>(2) この区間については、広がった歩道（屋外を含め）にカフェができたり、キッチンカーが営業できたりと、駅前に人が集える空間を演出すると聞たが、実際はどのようになるのか。</p> <p>(3) このような事に間違いがなければ、関係する条例なども変更する必要があるのではないか。</p> <p>2 新火葬場建設について</p> <p>新火葬場の建設については、本市の積年の課題であり、新火葬場計画の都市計画決定は、30～35年前に遡るはずである。改めて進めている新火葬場計画であるが、現在までの経過と進捗、そして新火葬場計画そのものを問う。</p> <p>(1) 約30年前に計画が一度頓挫しているが、その時の経過とその内容は。</p> <p>(2) 約20年間、計画は停滞していたと認識しているが、改めてスタートした計画においてもここ数年停滞しているように思うが、その内容と原因は何か。</p> <p>(3) 新火葬場計画において、計画進行の遅れが前回頓挫した内容と同様なのであれば、このまま進めて新火葬場の完成を見ることのできるのか。</p> <p>新火葬場を現在の計画地である余部町丸山に建設することの意義の一つは、近隣市町の需要を取り込み、ある意味広域での利用を目指すことで費用対効果が高く、需要のピークに間に合うことから、市民福祉にもつながり、私は大賛成であった。しかし、南丹市は新火葬場建設を決定して進んでいるのが実情である。</p> <p>(4) 新火葬場について、もう一度、現在地の下矢田町で改修または新築する考え、あるいは大井町の旧若宮工場跡地に建設する考えはないか。</p>	<p>市長 所管部長</p>
--	--	---	--------------------

		<p>3 まちづくり 行政について</p>	<p>(5) このまま計画が遅れることになれば、市民福祉として捉えても、その需要のピークに間に合わない、あるいは需要のピークに近い時期の完成となれば、何のために新築するのかという行政趣旨に反することになってしまわないか心配だが、所見は。</p> <p>国道9号は、慢性的な渋滞が発生し続けており、今後ますますの渋滞が予想される。この渋滞緩和に向けて、我々議員を含め、行政からも国へ要望活動を繰り返し、この度、数か所で交差点改修に着手され、一定の成果を上げてきていると承知している。しかし、まちづくりの観点からみると、当市も少し考え方を改める必要があるかもしれないとの思いから質問する。</p> <p>(1) 亀岡市域内の国道9号に43か所の信号機がある。これは全国的にも珍しいほどの密度であるということは認識しているか。</p> <p>(2) 国道9号と言えば、一桁国道であるが、当市内の国道9号の場合は既に生活道路となっており、一桁国道らしい機能は既に失われているとの認識はあるか。</p> <p>(3) 渋滞を緩和するためには、ボトルネックの解消が一番の方法である。ボトルネックとはすなわち老ノ坂峠であり、市内各地の信号機であり、その上、信号機以外の合流接点ということになる。この解決方法はどのように考えているか。</p> <p>(4) 一般的に、道路の渋滞はボトルネックが原因であると述べてきたが、要は当市のまちづくり自体が国道9号に張り付いてしまっており、元々の都市計画の不備あるいは失敗が原因だったのではないか。</p> <p>(5) 老ノ坂峠のバイパスはもちろん整備を進めていかなければならないが、それだけで解決するものではない。また、市内に新たなバイパス道路を造ることも効果的だが、その道路沿いに商店や家屋が張り付いてしまうと、結果として渋滞が移動するだけのことになる。しっかりとした計画と誘導が必要だと改めて考えさせられるが、所見は。</p>	<p>市長 所管部長</p>
--	--	---------------------------	---	--------------------

23	<p>菱田 光紀 6月22日(月) 15:30~</p> <p>※一問一答</p>	<p>1 城下町地区 のまちづくりに ついて</p> <p>2 林業振興に ついて</p>	<p>旧城下町地区の城下町らしさを大切にするまちづくりの基本方針とも言うべき「まちづくり憲章」が「京都亀岡城下町」まちなみ・まちづくり協議会によって策定されている。</p> <p>(1) 「まちづくり憲章」が策定された経緯は。</p> <p>(2) 本市が令和4・5年度に実施された「伝統的建造物群保存対策調査」において、旧城下町地区でどのような結果が見いだされたのか。</p> <p>(3) 城下町らしさを後世に残していくため、また観光面からも統一感のある町並み形成が必要だと思うが所見は。</p> <p>(4) それを実現するためには、行政による指導と支援が必要だと考えるが現状はどうか。</p> <p>(5) それらの制度の活用が進むように周知方法の検討や補助制度の拡大が必要ではないか。</p> <p>(6) 2008年に国において制定された地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）が本年3月に改正されている。</p> <p>①主な改正点は。</p> <p>②歴史的風致を形成する建造物の対象範囲が見直されているがその内容は。</p> <p>③歴史まちづくりと観光行政との連携強化が追記されているが本市でも可能なのか。</p> <p>④本市において活用できる国の補助制度にはどのようなものがあるのか、また、その場合の課題があるとすれば何か。</p> <p>世界の国内総生産（GDP）の半分以上が森林を含む自然由来に依存していると言われていいる。本市においても市域の約68パーセントを占める山林をいかに保全し、経済的効果を高め、次代につないでいくのがこれからのまちづくりにおける課題の一つである。</p> <p>(1) 本市における森林保全に関わる取組状況は。</p>	<p>市長 所管部長</p> <p>市長 所管部長</p>
----	---	---	---	---------------------------------------

		<p>3 食育推進基本計画について</p>	<p>(2) 森林に関連した経済生産高の現状と課題をどのように見ているのか。</p> <p>(3) 経済性だけでは図れない森林の持つ効果をいかに生かすべきと考えるのか。</p> <p>先般、国において食育推進基本計画が見直された。京都府においても第5次京都府食育推進計画が策定され、食育の定義や得られる効果、現状と課題などについて示されている。</p> <p>(1) 本市における食育の現状は。</p> <p>(2) 学校における食育の推進状況は。</p> <p>(3) 子どもたちが学校で食育指導を受けても現状として家庭や地域での実践が異なっているのは残念なことであるが所見は。</p> <p>(4) そのためには大人に向けた食育活動も必要ではないか。</p> <p>(5) 今秋開催される全国都市緑化フェア in 京都丹波を活用して地域や家庭を巻き込んだ本市ならではの食育推進運動を展開してはどうか。</p>	<p>市長 教育長 所管部長</p>
--	--	-----------------------	--	----------------------------